



にしじ

新年のご挨拶

... P2~7

古味勉企業長	P2
吉川清志病院長、山下元司副院長・こころのサポートセンター長	P3
島田安博副院長・医療安全管理センター長、西岡豊副院長	P4
森田荘二郎副院長・医療情報センター長・患者支援センター長、山本克人循環器病センター長	P5
林和俊総合周産期母子医療センター長、西岡明人がんセンター長	P6
西田武司救命救急センター長、小野憲昭地域医療センター長	P7
高知医療センター イベント情報	P8

1

JANUARY 2018 Vol.147



新年あけましておめでとうございます。本年も高知医療センターをどうぞよろしくお願いいたします。

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —

新年のご挨拶



企業長 古味 勉

新年あけましておめでとうございます。

皆さまには健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

高知医療センターは本年3月には開院13年を迎えます。開院当時700人程度だった職員数は現在1,000人を超えており、1日あたり入院で約470人、外来で約830人前後の患者さんの診療を行っております。

昨年を振り返りますと、4月に「がんサポートセンター」をオープンし、PET-CTや最新の放射線治療装置を順次稼働させるなど、がん診療の充実強化を進めました。

11月には「患者支援センター」を開設しました。患者支援センターでは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士などが連携して、入院する患者さんへの説明、問診等を行うことで、患者さんが納得し、より安全に安心して治療を受けていただくことを目指しています。

12月には、高知県ドクターヘリの機体を更新し、新しい機体での運航を開始しました。

これからも体制を強化し、医療技術の進歩や本格化する医療制度改革など、医療を取り巻く変化に適切に対応していくとともに、当院の役割である地域医療連携を基本とした良質で高度な医療の提供を、さらに推進していかなければならないと考えています。

そうした中、本年は色々な面でバトンタッチを意識

し「最高のバトンタッチ」を目指していきたいと思っています。これは、経営破綻から再生した日本航空（JAL）が行動指針とした「JALフィロソフィ」に記載された考え方の一つで、一人一人が「最高のバトンタッチ」を意識し、職種を超えた連携を通じて、より良いサービスの提供に

つなげるとするものです。その成果として、JALは飛行機の定時到着率世界一を達成しました。

この考え方は普遍的であり、医療にも当てはまります。院内でのチーム医療や担当者交代における引継ぎ、また、地域の医療機関との連携における紹介、逆紹介などもバトンタッチです。院内、そして地域医療連携で最高のコミュニケーション、最高の情報共有を図り、「最高のバトンタッチ」を重ねていくことができれば、患者さんにとって最高の医療の提供につながるのではないかと考えています。

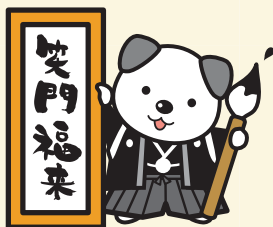
本年も皆さまのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



病院長 吉川 清志

新年明けましておめでとうございます。

昨年を振り返ってみますと、2月に高知学園短期大学との包括的連携協定を結び、高知県立大学と同様に、大学の学生・教員と当院の職員が実習や交流によりお互いに学びあう体制が整いました。4月に「がんサポートセンター」を開設し、がんの診断(PET-CT)・治療(高精度放射線治療装置、外来化学療法)・相談機能を充実させ、地域がん診療連携拠点病院の機能を高めました。11月には「患者支援センター」の運用を開始しました。ここは入院される患者さんに、予め入院前・入院中・退院について多職種(医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・歯科衛生士・ソーシャルワーカー・事務職員など)が説明し、質問にお答えすることにより、患者さんに安心して安全に入院治療を受けていただくための部署です。



急速な高齢化による医療費の伸びに対して財源不足の中で、国から様々な施策が打ち出され、我々はそれに適応すると同時に自院の立場を認識した医療が求められています。高知医療センターは開院から13年間、高知県民・市民に高度

急性期・急性期医療をしっかりと提供してまいりました。今後もこの方向は変わらず、基本目標である「医療の質向上」「患者さんサービスの向上」「経営の効率化」を推進し、理念である「医療の主人公は患者さん」を実現し、患者さんや地域の医療機関に信頼される病院を目指します。



私は、何よりも重要なことは職員の力(知識と技術と心)だと常々考えています。多職種の職員が、自ら・仲間から・患者さんから学び、自分らしく成長しやりがいを持って協働すること、家族や同僚や仲間との時間を大切にすることによりワーク・ライフ・バランスを保てば、患者さんも自らも満足できる病院になることができます。

今年は診療報酬と介護報酬の同時改訂の年であり、社会保障費抑制のため病院経営は一層厳しくなることが予想されますが、職員と共に頑張ってもらいますのでご支援ご協力をお願いします。

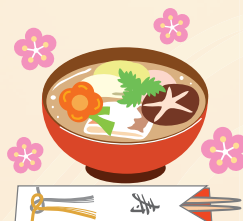
副院長・こころのサポートセンター長 山下 元司

新年明けましておめでとうございます。

昨年は児童精神科医師2名が全て交代しました。5年勤務した熟練の医師2名が一杯外来、入院治療をしていたのを、新しく入職した2人のいわば新人の医師にうまく引き継げるか心配したのですが、なんとか軟着陸できたようでほっとしています。2名の医師の努力に感謝したいと思います。

規模の大きい病院で勤務している医師は、外来をするのは2日とか3日が普通ですが、児童精神科の医師は毎日、午前も午後も外来診療をしている現状で、たくさんの患者を診療する必要があるのではやむをえないとはいえ、あまり好ましい状態ではありません。診療が終われば診断書を書いたり、症例カンファレンスをする必要があり、その時間が確保されている必要があるからです。

ところで少子化の中で小児、児童の精神衛生に関心が集まっていることは良いことではありますが、学校現場で深刻な症例を選び抜くというより、症例を満遍なく掘り起こしている現状があり、対象者が増加傾向で医療で対応できる数の何倍もの待機患者がい



ます。現在診療予約は3ヶ月先まで埋まっており、解消の見込みはありません。

児童精神科の入院のイメージが一般の方には湧きにくいと思いますが、少なくない数の児童が予約外の緊急入院をします。自殺予防などに大きく貢献をしているということです。

さて、こころのサポートセンターの何年来の問題は、成人精神科病棟の再開です。精神科医師の採用は難しいところもありますが、平成24年開設当初の3人程度を確保して、成人の精神障害者を精神科病棟で治療できるようにしたいと考えています。平成24年当時の燃え尽きがおこらないよう、今後は着実に実績を積み重ね安定した運営ができるようになれば良いと考えます。

順次発展していけば、職員の数も増えて精神科も救急医療を担うようになる日が来るかもしれません。



新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。

昨年は待望のがんサポートセンターの開院となり、外来がん化学療法のセンター化が実現しました。一日あたり30名程度の固形がん患者さんの抗がん剤治療をお引き受けしています。最近になり抗がん剤の新薬が増加し、レジメンも複雑化の一途をたどっています。副作用を抑える治療法も進歩したお陰で、患者さんは入院せずに外来で治療継続を行えるようになりました。しかしながら、治療法の進歩により、高齢患者さんも治療対象となり、さらに高額な免疫チェック阻害剤の登場で、新しい課題が生まれています。数年前から米国でChoosing Wisely(賢い選択)というキャンペーンが開始され、適切な治療選択や不要な



検査の排除などで、無駄な治療を行わず、医療費削減を目指すことを患者さんと医療者が真面目に考えようという動きがあります。高知県でも高齢化や、医療費が問題になっています。生活改善、早期発見で、日常の健康に早期に投資することが、楽しい老後につながると思います。

がん治療の新しい流れとして、MDT(multi-disciplinary team:多職種参加型の症例検討会)による治療法の検討というものがあります。診断、手術、放射線、薬物、病理、緩和などがん患者の治療プロセスに関わる専門医が一同に会して、境界領域の患者さんの治療方針を決定しようというものです。最適の治療方針を決定するだけではなく、医療者側の経験・知識の共有、濃縮が重要な点です。幸い当センターにはこれに近い状況で治療方針を検討する機会を週1回開催し、医師だけでなく看護師も参加し、患者さんの病態から勉強しています。



医療は多くの専門職がかかわり、最終的には患者さんに最善の治療結果を提供することを目指しています。高知医療センターは今年も、最大限の多職種チームワークで頑張ります。

本年も何とぞ、よろしくお願い申し上げます。

明けましておめでとうございます。皆さまこやかに新春をお迎えのことと存じます。

日頃は、高知医療センターとの医療連携にご理解とご支援を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

昨年4月におきまして、7年間務めさせていただきました地域医療センター長を退くこととなりました。在任中は、各都市医師会を始め、たくさんの医療機関の訪問もさせていただき、当院との連携強化をお願いしてまいりましたが、徐々に「顔が見える」医療連携ができるようになってきたのではないかと自負しております。たくさんの方々にお世話になり、本当にありがとうございました。

これからも高度急性期病院、また地域医療支援病院としての当院の医療機能を十分に役立てるためにも、引き続きまして地域医療センターへのご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



現在は、消化器外科医としての診療業務の他に、外来診療の統括、ベッドコントロール、医療関連機器等の整備調整、医療秘書(医師事務作業補助者)の

統括、等の業務にも従事しております。

ベッドコントロールに関しましては、在院日数短縮を意識しながらも、満床等でご迷惑をおかけしないように、一定の余裕をもったベッドコントロールを行い、できるだけ多くの患者さんを受入れられるようにしていきたいと思っています。



これからも、地域の医療機関の方々のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、医療秘書につきましては、15:1の配置を達成しておりますが、今後、ますます医師事務作業補助の質の向上を図り、医師業務の負担軽減、さらに医師確保の安定に繋がたいと考えております。

これからも、引き続きまして高知医療センターへのご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

この1年が皆さまにとって良い年になりますように祈念申し上げ、新春のご挨拶とさせていただきます。

謹んで新年のお祝いを申し上げます。昨年当院では、皆さま方のお力添えをいただき、大きな事業を2つ成し遂げることができました。

一つ目は、バーチャルな機能であった「がんセンター」を、実体を伴った「がんサポートセンター」として4月より稼働開始することができました。ご尽力下さいました皆さま方に、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。高精度放射線治療装置は、取り扱いが非常に大変ですが、連日の放射線治療スタッフの奮闘努力もあり、2台とも順調に稼働を始めております。PET-CTも岡山大学放射線科のご協力、専門読影医を配置することができ、件数も順調に伸びており、臨床の場に役立っております。

二つ目は、本館外来化学療法室の跡地を大々的に改修し、「患者支援センター」を設立することができました。11月より運用を開始しております。「患者さんに納得して、安心して医療を受けていただく」を理念として掲げました。具体的には、全身麻酔での手術を受けられる予定入院の患者さんを対象に、入院・検査・手術の説明を行なうとともに、術後合併症予防にもつながる術前の口腔内評価、栄養評価や、日常服用されている薬剤、サプリメント等を把握し、手術に影響する薬剤がないかどうかのチェックも行ないます。

これらのマネジメントを、多職種（医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、医療秘書、事務職員

等）が連携し提供することで、患者さん・ご家族の皆さまが入院・手術についてより理解され、安心して療養生活が営め、周術期の安全性を確保し、満足度の向上を図り、早期回復、日常生活への早期復帰を目指します。また、地域連携室とも協働して、退院支援・転院調節も進めていきます。

スタッフも、職種の壁を越えて、円滑なコミュニケーションを取りながら患者さんへのサポートを提供してくれています。将来的には、緊急入院を除く全入院患者さんに利用していただけるように対象を拡大していきたいと考えております。

このように「がんサポートセンター」、「患者支援センター」とも形は整いましたので、今年からはその質の向上を図っていかねばなりません。平素からお世話になっております関連医療機関の皆さま方、そして高知県民の皆さま方にも頼りにしていただけるような病院作りを進めてまいりますので、引き続き温かいご支援、ご指導をいただきますよう、お願い申し上げます。



循環器病センター長 山本 克人

新年明けましておめでとうございます。旧年中は当循環器病センターの運営に、温かいご支援ご協力をいただけたことに深く感謝いたします。

さて、当循環器病センターの昨年1年は、表面上はあまり変化のない1年だったように見えますが、実際は着実に変化しており、特に中堅、若手の成長が感じられた年でした。このことは医療全体の充実を意味し、高度かつ最先端の循環器医療を提供できる体制がこれまで以上に整ってきているかと感じます。10月には他県からも合わせ190人以上の医師やメディカルの方の参加をいただき、当院でPCIのライブを開催することができました。恙なくまた大好評のなかで終了できたのも、各職種のベテランだけでなく、これら中堅、若手のレベルが高くなったからこそと考えております。

不整脈の分野では、一昨年再開した心房細動などに対するカテーテル・アブレーションが成績も良好で順調に推移しています。また、開始から3年を経過した経皮的な大動脈弁移植術（TAVI）は、ますます経験を重ね順調に高度技術の提供ができております。もちろん、PCIや大動脈ステントグラフト挿入術、開心術などの技術力も確かであり、引き続き冠動脈疾患、不整脈、弁膜症など幅広い分野の疾患に対し、さまざまな専門的な治療を、十分に提供することができて

いるかと思えます。

今後の予定ですが、エキシマレーザーを使用したペースメーカーリード抜去術の施設認定を四国で初めて取得したいと考えており、すでに循環器内科と心臓血管外科が協力して研修などに参加しております。これまでペースメーカー感染などでリードの抜去が必要な場合は、開心術を行うか、岡山などの四国外でこの手術を受けるかどちらかでしたが、今後は高知県でこの治療が行えるようになります。このように、患者さんに大変有用で新しい治療を、これからも積極的に取り入れ発展させ、高知の循環器医療を引っ張っていきたいと考えております。

当センターでは各職種のスタッフが協力し合い一丸となり患者さんに寄り添った医療を心掛けております。さらに皆さまのお役にたてるよう、頑張りたいと考えておりますので、本年も循環器病センターに更なるご支援を何とぞよろしくお願いいたします。



総合周産期母子医療センター長 林 和俊

新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は総合周産期母子医療センターの運営に多くの方々のご支援を賜りましたこと、心から御礼申し上げます。

私は総合周産期母子医療センター長を拝命した産婦人科医としてここ数年間に取り組むべきテーマを決めていますので、そのことを中心に書かせていただきます。第1には高齢妊娠、体外受精妊娠を背景としたハイリスク妊娠の対応、第2に大災害時周産期医療体制の検討、そして第3に医療安全のためのチーム医療の確立です。常にこの3つのテーマを元に当院の周産期医療の在り方を考え、高知県から委託を受けた事業の企画・運営を進めています。それに沿った当センターの取り組みをご紹介します。当院の分娩の約3割を占める高齢妊娠は合併症も多くハイリスク妊娠として、より慎重な対応が求められます。未来ある母子の安全を確保するための新たな知識、技術や心の問題の研修会を開催しています。分娩施設が県中央に集中し周産期医療過疎地域がある本県の救急隊員へのアンケート調査結果を受けて、救急救命士を対象とした病院前妊産婦救護



研修BLSOを開催しました。第1回は「生命(いのち)の基金」の助成を受けて開催しましたが、本年度から高知県の事業となり、年2回開催となりました。県としての開催は全国的にも注目されている事業で大災害時にも有益な研修と考えています。患者の安全を守る上でチーム医療はとても重要です。チームSTEPPSマスタートレーナーである種田憲一郎先生(国立保健医療科学院、WHO西太平洋事務局)を招聘し、周産期センターに関わる多職種約50名を対象に、2回目となるチームSTEPPS研修も開催しました。個々の人間のスキルアップは必須で、常に追求すべきものですが、そのスキルを発揮するためには有機的な連携が必要です。「高知家」の母子を守る周産期医療の要として、病診・病病連携を図り、院内での多科・多職種の良好な協働を維持すること。昨年に引き続き進めて参りますので本年も何とぞご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



がんセンター長 西岡 明人

新年明けましておめでとうございます。旧年中は高知医療センターがんセンターに対しまして格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。2015年4月からがんセンター長を拝命して3年弱、この間大過なく職務を全うすることができましたのも関係各方面の方々のご協力とご支援の賜と感謝しております。

高知医療センターは、2006年6月に制定されました「がん対策基本法」に則った体制の構築に努め、2008年2月に高知県で初めての「地域がん診療連携拠点病院」の認定を受けました。がんセンターでは地域がん診療連携拠点病院として、また、高知県におけるがん治療の最後の砦としての使命を全うするべく診療体制の整備・充実、診療実績の向上に努めております。

昨年、2017年はがんセンターにとって一つの節目となる年でした。皆さますでにご存知のように、新しいがんセンターであります「がんサポートセンター」



が4階建ての真新しい建物として4月に開院いたしました。4月中旬には3階の外来がん化学療法部門と4階の「がん相談支援センター」、「がん患者サロン」および「緩和ケアセンター」が順次、診療・相談を開

始し、2階の核医学検査部門では高知県で2施設目となるPET-CTが5月から稼働し始めています。また、1階の放射線治療部門においては、7月と10月に1台ずつ2台の高精度放射線治療装置での治療を開始いたしました。この2台の治療装置は、世界でもトップレベルの性能を有する装置であり、定位放射線治療(SRT)や強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)といった最新の放射線治療にも最高レベルで対応することができます。

このようながんサポートセンターの整備をはじめとして、高知医療センターがんセンターでは、これからもより高度で充実したがん診療を提供できるように頑張っていく所存でありますので、県民の皆さま方、医療機関の皆さま方をはじめとする関係各方面の皆さま方には本年も変わらぬご支援を高知医療センターとがんセンターに賜りますようよろしくお願い申し上げます。



救命救急センター長 西田 武司

新年あけましておめでとうございます。

私は、一昨年10月より救命救急センター長を拝命しました。早いもので2回目の正月を迎えることとなりました。年々刻の流れが早くなっていく気がしており「光陰矢の如し」を痛感しております。

ご存知の通り、当救命センターは高知県内に3カ所しかない救命救急センターのひとつとして院内の様々な診療科の協力の元に急性期疾患・重症外傷などの対応を行っています。また高知県のドクターヘリ事業の基地病院として実務を担当しております。この事業には高知県内の高知赤十字病院、近森病院、高知大学病院に勤務されている救急担当の先生方にもご協力いただき、気象条件や他県の災害などの特殊な場合を除いて対応できる体制を維持しております。事実、昨年度のドクターヘリ出動件数は806件



と過去最高の出動件数となっており、全国的にも上位の出動件数です。また、高知県には消防防災ヘリコプター（りょうま：シコルスキー S76B型、おとめ：アグスタ式AW-139）が存在しており、以前から協力

体制を維持しています。いずれも高知県内の主に高知市から遠方の地域や山間部で活躍しています。一方、高知市近郊では当院で運用しているRAPID CAR（欧州型ドクターカー：ラピッドカー）を消防機関からの要請に基づき、近隣地区を主に救急隊と病院の外での医療活動を行っています。昨年度には150件の出動となっておりこちらも過去最高件数の出動となりました。いずれも出動件数が増加する事自体は決して喜ばしいことではありませんがこれらの活動により、急病人・傷病者の予後の改善が期待されており、重要な活動となっています。

本年も高知県の急性期・地域医療へ貢献すべく、他の診療科の先生方と共に精進して参りたいと思います。

皆さま方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



地域医療センター長 小野 憲昭

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、高知医療センターとの医療連携にご協力ご支援を賜り誠にありがとうございました。当院開院当初から設けられております地域医療センターでは、これまで12年間あまり、地域の先生方との連携に努めてまいりましたが、おかげさまで各地域医療機関との迅速で円滑な連携を構築できておりますこと、改めて御礼申し上げます。

私は、昨年4月地域医療センター長を拝命し、さらに顔の見える開かれた地域医療センターをめざして、多くの病院訪問・意見交換を行わせていただきました。その中で、高度急性期病院であります当院は、地域の先生方からご紹介いただく患者さんに、超急性期・急性期の医療・手術を適切に行い、再び地域の先生方に逆紹介させていただいて、患者さんが早く元通りの健康な生活を過ごせるようになること



が一番大切と考え努力しております。先生方から安心して紹介いただける・信頼のできる病院となれますよう、また患者さんの治療が進めば改めて先生方に安心して逆紹介を受けていただ

ける病院となれますよう、今後ともに努力してまいります。また医療連携のみならず、介護分野との連携も必須と思われますので、さらに取り組んでまいります。

本年度になり当院では、逆紹介率の若干の低下がみられます。

改めて医師・看護師・ソーシャルワーカー・事務職員一同一丸となって、よりいっそうわかりやすく配慮した診療情報提供を行って逆紹介を行い、またさらに皆さまからの紹介に迅速に対応することで、当院の役目を果たしていく所存です。

これからも、高知県の基幹病院、地域医療支援病院の地域医療センターとして、患者さんの安全と安心、また地域医療機関の皆さま方の信頼をいただきますよういっそうの努力をしてまいりますので、本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



月	日	曜	高知医療センター イベント情報			
1月	13	土	第44回 地域がん診療連携拠点病院 公開講座 (参加費無料・申込不要)			
			内 容	講義1: 甲状腺がんの診断と治療 講義2: 肝臓外科治療の最前線 講義3: がん治療をサポートするIVR(画像下治療)	場 所	田野町ふれあいセンター イベントホール (安芸郡田野町1456-42)
			講 師	講義1: 高知医療センター 乳腺・甲状腺外科 医長 大石 一行 講義2: 同 消化器外科・一般外科 医長 住吉 辰朗 講義3: 同 放射線療法科 科長 秦 康博	時 間	14:00～16:30
			対 象 一般			
	18	木	高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修 (参加費無料・申込要) ※申込期限: 1月8日(月)			
			内 容	成人BLS/AED研修	場 所	高知医療センター 2階 スキルズラボ室
			講 師	高知医療センター BLSインストラクター	時 間	13:00～16:00
			対 象 看護師(3名)			
	21	日	高知医療センター 看護実践発表会 (参加費無料・申込不要)			
			内 容	基調講演: これからの看護の動向 一高知県の地域医療構想をふまえて	場 所	高知医療センター 2階 くろしおホール
			講 師	高知県立大学 学長・精神看護学教授 野嶋 佐由美 氏	時 間	13:00～16:00
			対 象 看護職			
2月	21	日	高新・高知医療センターがんセミナー 2017 (参加費要・申込要)			
			内 容	膵がんの診断と治療	場 所	高新文化教室(RKC高知放送南館3階37号室)
			講 師	高知医療センター 消化器外科・一般外科 医長 岡林 雄大	時 間	10:30～12:00
			対 象 一般(40名)			
	26	金	平成29年度 肥満・糖尿病外科セミナー (参加費無料・申込不要)			
			内 容	肥満症・糖尿病への外科治療 岡山大学病院での導入から現状まで	場 所	高知医療センター がんサポートセンター 4階 研修室
			講 師	岡山大学病院 低侵襲治療センター 准教授 香川 俊輔 氏	時 間	19:00～20:30
			対 象 医療関係者			
	3	土	高知医療再生機構 小児科専門医養成支援事業 (参加費無料・申込不要)			
			内 容	ミトコンドリア病の病態研究から創薬、 新規バイオマーカーの開発まで	場 所	高知医療センター がんサポートセンター 4階 研修室
			講 師	久留米大学医学部 小児科 教授 古賀 靖敏 氏	時 間	15:00～16:15
			対 象 医療関係者			
2月	3	土	第48回 地域医療連携研修会 (参加費無料・申込不要)			
			内 容	講演1: 認知症 一特に予防について 講演2: 認知症の方の理解とケア	場 所	高知医療センター 2階 くろしおホール
			講 師	講演1: 高知医療センター 副院長兼こころのサポートセンター長 山下 元司 講演2: 同 精神科看護認定看護師 岡村 邦弘	時 間	14:00～15:40
			対 象 医療関係者			

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

さて、平成という年号が残すところ、1年と数ヶ月になりました。平成元年生まれの私としては、少しさびしい思いです。私が働き始めた約7年前は、平成生まれだと伝えると、みなに驚かれていました。あと、二十数年経てば、新年号生まれの方と働くことに驚く自分がいるのでしょうか。

と、新年明けて早々、1年以上も先のことを話していると、鬼に大爆笑されそうなので、このへんでやめておきます。

それでは、みなさまにとりまして、良い1年となりますように。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(広報委員 須賀)



平成30年1月1日発行
にじ1月号(第147号)
毎月発行
編集者: 広報委員会
発行者: 吉川 清志
印刷: 株式会社 高陽堂印刷

発行元:
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp